

東京へノンストップで二時間

宇部空港が開港

宇部空港開港式では、祝賀花火が上がり、航空自衛隊などの飛行機二十二機が見事な祝賀編隊飛行を見せるなど、よるこびにつつまれた。その



四羽は、二重橋上から皇居のお堀に放鳥された。このほか、宇部市の味覚の代表である「くるまえばい」四十時が初荷として積まれた。

宇部市制施行五十周年

（一九七一年十一月一日）「市民宣言」文案を委員会で採択

市民宣言

わたくしは宇部市民は、輝かしい市制五十周年にあたり、先人の遺業をたぐひつちかへた宇部の精神（こころ）を受け継ぎ、愛する人々も愛する郷土のために、つぎの百年をめざし、人間が尊重される都市づくりに力強く前進することを宣言します

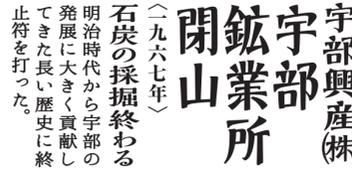
全市あげ祝賀ムード

市制五十周年当日の朝、琴崎八幡宮で奉告祭が行われ、多くの市民が参加して五十周年を祝福。その後、渡辺翁記念会館にて式典が行われた。



初の野外彫刻展

（一九六一年）常盤公園にて第一回宇部市野外彫刻展は二カ月にわたって常盤公園内渡辺記念植物園西側と遊園地催し館の二カ所で開催された。



石炭記念館開館

（一九六九年）閉山から二年、石炭がもたらした多大な恩恵に感謝する



ため明治百年記念事業として常盤公園の一角に建設された。多くの貴重な文獻や資料などを整備、収蔵するとともに市内

市花をサルビネ市木をクスノキに制定

（一九七二年）市民の投票で決定



環境保全センター完成

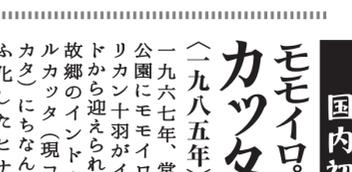
（一九七五年）これまで燃えるゴミも燃えないゴミも埋立て地で埋没処理していたが、土地面積には限界があるため、将来を見据え新たに焼却炉が導入された。



UBEビエンナーレの前身

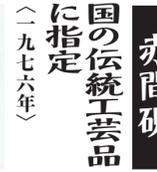
宇部興産株式会社

（一九六七年）石炭の採掘終わる明治時代から宇部の発展に大きく貢献してきた長い歴史に終止符を打った。



山口宇部有料道路開通

（一九七五年）宇部⇄嘉川



赤間硯

（一九七六年）国の伝統工芸品に指定



文化会館完成

（一九七九年）市民文化の拠点に

市制五十周年記念事業の一環として建設された。音響照明機器を備えた文化ホールのほか、大小の研修室・展示室・庭園等備える。多くの寄付金が寄せられた「市民手づくり」の文化会館として、広く文化活動の拠点となる。設計者は渡辺翁記念会館なども手掛けた村野藤吾氏。

姉妹都市締結

（一九八〇年）オーストラリア「ニューカッスル市」



国内初の人口ふ化

モモイロペリカンのカツタ君誕生

（一九八五年）一九六七年、常盤公園にモモイロペリカンを迎入れた。故郷のインド・カールカツタ（現コルカタ）にちなんで、ふ化したヒナは「カツタ君」と名付けられた。



市立図書館新築オープン

（一九九一年）情報発信基地へ

市制施行以来五十年、旧紡績工場の赤レンガを利用して、多くの彫刻が設置された。蔵書は一般・児童図書、郷土資料や新聞、雑誌、点字資料、大型の美術関係図書と幅広く揃えている。

常盤公園に多目的展示施設

（一九九一年）常盤湖畔すぐそばに



宗隣寺の龍心庭

国の名勝に指定

（一九八三年）県内最古の庭園



友好都市締結

（一九九二年）中国「威海市」

美しい海岸線が人気の観光都市でもある中国山東省威海市で、調印式があり、友好旗の交換や記念植樹が行われた。温かい歓迎の中で両市・両市民の新しい交流の扉が開かれた。

カツタ君物語公開

（一九九五年）市民からの多数の募金で実現



興産大橋開通

（一九八二年）伊佐⇄沖の山つなぐ



常盤公園

（一九八九年）日本の都市公園100選に



リサイクルプラザ完成

（一九九五年）中国地方初

鉄やアルミ等の再利用できるものを資源化することが可能となり、廃棄物の減量を実現。また市民のリサイクル活動も推進している。

男女共同参画宣言都市に

（一九九八年）



UNEP(国連環境計画)より「グローバル500賞」を受賞

（一九九七年）「宇部方式」評価され

「宇部方式」評価され、環境の保護及び改善に功績のあった個人又は団体を表彰する制度。宇部市は石炭産業の発展に伴った煤塵（ばいじん）による大気汚染の防止対策

宗隣寺の龍心庭

（一九八三年）県内最古の庭園

